

鈴亀地域医療構想調整会議



鈴亀区域における病床の機能分化にかかる 支援制度の活用希望について

(協議事項)

「令和7年度病床機能分化推進基盤整備事業補助金」の対象医療機関

病床機能分化連携推進事業補助金について

- 地域医療介護総合確保基金を活用した病床機能分化推進基盤整備事業に基づき計画する病床の機能転換にかかる事業（回復期転換）については、地域医療構想との整合性が確保されているかどうか、地域医療構想調整会議において事前に確認することとしています。
- 令和7年度鈴鹿区域における、地域医療介護総合確保基金を活用した病床の機能転換にかかる事業については、以下の医療機関から活用希望があったため、地域医療構想との整合性について協議します。

事業の内容

- **医療機関名** 鈴鹿回生病院
- **転換内容**

令和7年度に、現在の3A病棟で運営している53床（急性期一般入院料1）を回復期リハビリテーション病棟へ転換する。

当該病棟は、新型コロナウイルス感染症流行下において、コロナ患者の対応病棟としていたが、看護師不足等により、令和6年3月より休棟している。

今後病棟を再開していくにあたり、地域で不足する機能である回復期（回復期リハビリテーション病棟）へ転換することで、地域医療構想上の必要病床数に近づく取組が可能である。
- **対象経費**
 - ① 回復期リハビリテーション病棟へ転換するための施設の改修および設備設置に必要な経費
 - ② 訓練室・浴室・理学療法室等の設置に必要な経費 等
- **転換時期** 令和7年度中

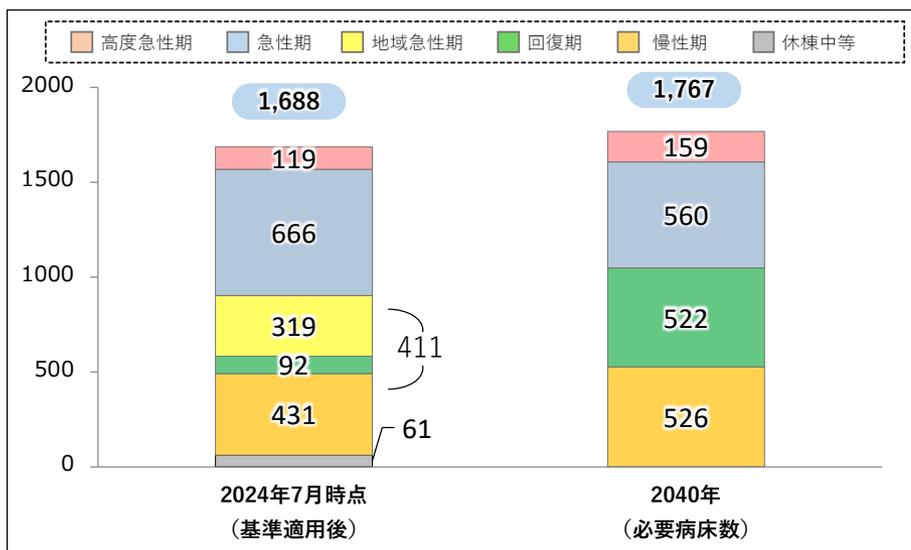
地域医療構想との整合性について

令和5年度病床機能報告に基づく定量的基準適用データ

(A) 転換前			(B) 転換後			増減 (B-A)
一般	高度急性期	61	一般	高度急性期	61	
	急性期	209		急性期	209	
	急性期 (休棟)	53		急性期 (休棟)		▲53
	地域急性期	56		地域急性期	56	
	回復期			回復期	53	53
	慢性期			慢性期		
合計		379	合計		379	

必要病床数と現状の病床数の比較グラフ

鈴亀



回復期リハビリテーション病棟入院料に係る区域外流出状況

入院料	区域外流出割合
一般病床入院料 (13対1、15対1) 地域包括ケア病棟入院料 (管理料含む) 回復期リハビリテーション病棟入院料	25.4%
回復期リハビリテーション病棟入院料	39.2%

資料：厚生労働省「NDB」(令和4年度)
※国民健康保険、後期高齢者医療制度のレセプト件数

県の考え方

鈴亀区域においては、将来の必要病床数と比較して、急性期が106床過剰で、回復期が111床不足しており、回復期リハビリテーション病棟入院料に係る区域外流出割合が39.2%と比較的高い状況をふまえると、県としては今回の病床転換は将来の必要病床数での病床機能に近く転換となりますので、鈴亀区域の地域医療構想との整合性が確保される計画であると考えます。

(参考) 三泗・鈴亀・津地域の回復期リハビリテーション病棟の状況について

三泗

鈴亀

津

構想区域人口10万対
国勢調査(2020年10月)

77.3床

29.7床

131.8床

構想区域65歳以上人口10万対
国勢調査(2020年10月)

303床

113床

445床

区域外流出割合▶

2.5%

20.5%

2.0%

18.7%

0.4%

0.4%